

第 49 回国際通貨金融委員会（IMFC）議長声明（仮訳）  
（2024 年 4 月 19 日 於：米国・ワシントン D.C.）

IMFC メンバーは、ウクライナにおける戦争、ガザにおける人道危機、紅海における海運上の混乱を含む、現在の戦争や紛争による、世界経済へのマクロ経済面、金融面での影響について議論した。IMFC は地政学的・安全保障上の問題を解決するフォーラムではなく、これらの問題は他のフォーラムで議論されることを認識しつつ、IMFC メンバーは、こうした状況は世界経済に著しい影響を与えることを認識した。今日の時代は戦争や紛争の時代であってはならない。

\*\*\*\*

IMFC は、ナディア・カルビーニョ氏の IMFC 議長としてのリーダーシップに深い感謝を示し、モハメド・アルジャドアーン財務大臣を新たな議長として歓迎する。

1. 世界経済の軟着陸が近づきつつあると考えられる。経済活動は、世界の多くの地域で予想以上に堅調であることが明らかとなったものの、国によってばらつきがある。しかし、中期的な世界経済の成長見通しは依然として弱い。進行中の戦争及び紛争は世界経済に大きな負担を課し続けている。供給ショックの巻き戻しと、金融引締め効果により、ほとんどの地域でインフレ率が低下してきたが、インフレ率の持続性には注意が必要である。見通しに対するリスクは現在概ねバランスした状況にあるものの、インフレ率と金利、資産価格と金融安定、財政政策の動き、地政学的動向の短期的な道筋に左右される下振れリスクは残っている。世界経済はまた、気候変動、債務脆弱性の増大、拡大する格差、地経学的分断のリスクによるものを含む、構造的な課題にも直面している。

2. こうした中、我々の政策の優先課題は、包摂的で持続可能な成長を促進しつつ、物価の安定を達成し、財政の持続可能性を強化し、金融の安定を守ることである。我々は、最も脆弱な人々を守り、成長を促進する投資を保護しつつ、各国固有の状況に注意深く応じた行動をとりながら、財政バッファの再構築を進めていく。中央銀行は引き続き、それぞれのマンデートと整合的に、物価の安定を達成することに強くコミットしており、負の波及効果の抑制に資するよう、政策目的について明確に意思疎通を行いつつ、データに基づいて、政策を引き続き調整する。中央銀行は、不動産市場を含む銀行及びノンバンク双方のリスクをモニタリングする上で、監督・規制当局と連携している。我々は、適切な場合には、金融部門、特にノンバンク金融機関における、データ、監督及び規制のギャップに引き続き対処し、また、システミック

リスクを緩和するためのマクロプルーデンス政策手段を実施する用意もある。我々は、経済活動に対する拘束的な制約を緩和し、生産性を向上させ、労働市場への参加を増加させ、社会の一体性を促進し、グリーン及びデジタル移行を支援するために、的を絞り、適切に順序付けられた、供給力を向上させる構造改革を加速させる。

3. 我々は、世界経済と国際通貨システムの強靱性を向上させるための国際協力の重要性を強調する。我々は、各国固有の状況を考慮しつつ、適切な場合には、気候及び、人工知能を含むデジタルに関する移行を支援するために共同で行動する。我々は、為替レート、過度のグローバル・インバランスへの対処及びガバナンスに関する我々のコミットメント、並びに 2021 年 4 月になされた、ルールに基づく多国間貿易システムに関する我々の声明を再確認し、保護主義的措置を回避するという我々のコミットメントを再確認する。我々はまた、グローバル金融セーフティ・ネットを強化し、国際的な債務脆弱性に対処するために引き続き協働する。我々は、脆弱国が脆弱性及び資金ニーズに対処するための改革を実施する中、これらの国々を継続して支援する。

4. 我々は、専務理事のグローバル政策アジェンダ（GPA）で示されている政策の優先事項を歓迎し、IMF が、そのマンデートに沿って、他の国際機関との協働を活用しつつ、これらの課題に取り組むことを期待する。

5. 我々は、加盟国がリスクを評価し、政策・組織的枠組を強化し、バッファの再構築と包括的で持続可能な成長の促進のためにマクロ金融・マクロ構造的政策を調整し、経済的強靱性を強化するため、各国の状況に合わせた助言を行うことに焦点を当てる IMF のサーベイランスを支持する。我々は、IMF のマンデートに沿って、現在世界経済を再構築している変革的なトレンドに関連するリスク及び脆弱性を評価することの重要性を確認する。

6. 我々は、グローバル金融セーフティ・ネットの中心にあり、強固で、クォータを基礎とし、かつ、十分な資金基盤を有する IMF への我々のコミットメントを再確認する。第 16 次クォータ一般見直しの完了は、IMF のクォータ資金を 50% 増加させ、クォータを基礎とする IMF の性質を強化し、ショックを受けやすい世界においてグローバル金融の安定を守るための能力を強化する。我々は、今年 11 月中旬までにクォータ増資に同意するための国内承認を得るべく迅速に取り組んでおり、新規借入取極（NAB）参加国は、NAB の規模の縮小のために、同じ期限までに国内承認を得るべく取り組んでいる。クォータ増資への速やかな同意を確保する上

で遅延が生じた場合に IMF の融資能力を維持するためのセーフガードとして、二国間借入取極の参加国は二国間融資へのアクセスを維持するための過渡的な取極に関する国内承認を確保するため取り組んでいる。我々は、最も貧しい加盟国のクォータシェアを守りつつ、加盟国の世界経済に占める相対的な地位をより良く反映させるための、クォータシェアの調整の緊急性と重要性を認識する。したがって、我々は、理事会に対し、第 17 次クォーター一般見直しの下で、新たなクォータ計算式を通じたものを含め、更なるクォータシェア調整に向けた指針としての可能な複数のアプローチを 2025 年 6 月までに取りまとめるよう取り組むことを求める。

7. 我々は、加盟国が国際収支上の問題に対処し、経済的安定及び包摂的な成長を達成することを支援するために、資金支援を提供するという IMF の重要かつ触媒的役割を認識する。IMF は、低所得国（LICs）にとっての強力なパートナーであり続けるべきであり、このため、我々は、内部資金の活用や融資制度の改革を含む全ての方策を追求することによって、LICs の国際収支上のニーズを満たし、貧困削減・成長トラスト（PRGT）を持続可能なものとすることを目指し、PRGT の制度及びその資金調達に関する見直しに期待する。我々はまた、気候変動や将来のパンデミックに対する加盟国のマクロ経済面の強靱性の更なる強化を支援する、強靱性・持続可能性トラスト（RST）の中間見直しに期待する。我々は、経済がより強固な加盟国の自発的な貢献に感謝するとともに、IMF の譲許的ファシリティと RST に対する更なる幅広い貢献を奨励する。さらに、我々は、サーチャージ・ポリシーの見直し、一般資金勘定のアクセスリミットの包括的な見直し、プログラムデザイン及びコンディショナリティの見直しの開始に期待する。

8. 我々は、IMF が、各国が債務脆弱性に確実に取り組むことができるよう支援することを支持する。我々は、G20 の「共通枠組」（CF）及びそれ以外の下での債務再編の進捗を歓迎する。我々は引き続き、予測可能で、適時に、秩序立ち、かつ連携した方法で、「共通枠組」の実施を強化することを含め、効果的、包括的かつ体系的に国際的な債務脆弱性に対処するとともに、債務の透明性を向上することにコミットする。我々は、債務再編を促進する方法について共通の理解を促進するための、公的債務にかかるグローバルラウンドテーブルにおける現在進行中の作業を歓迎するとともに、IMF 及び世界銀行の低所得国向け債務持続可能性フレームワークの見直しに期待する。

9. 我々は、能力開発（CD）を強化し、適切な資金を確保するための、IMF の継続的な努力を

支持する。我々は、公的財政に関する CD の増大する需要に対応するための、グローバル公的財政パートナーシップの立ち上げを歓迎するとともに、世界銀行との協働による、国内資金動員イニシアティブの進展を支持する。

10. 我々は、サブサハラ・アフリカの発言権と代表性を強化し、理事会における地域の代表性の全体的なバランスを向上させるため、今年 11 月、サブサハラ・アフリカのために IMF 理事会に新たに設けられる 25 番目の理事を迎えることを期待する。我々は、2022-2023 年度多様性・包摂性レポートで特定された固有の課題に対応して、新規・既存の優先分野を支援する人材を惹きつけ、育成し、スタッフの多様性及び包摂性を更に向上させるための、IMF の更なる努力を支持する。我々は、理事会でのジェンダーの多様性を強化するコミットメントを再確認し、理事会において指導的な地位を占める女性の数を増加させるための、新たに設定された自発的目標を歓迎し、目標達成のための行動をとることに合意する。

11. 我々は、クリスタリーナ・ゲオルギエヴァ氏の IMF 専務理事在職期間中の献身的な貢献に謝意を表し、2 期目の 5 年間の任期を務めるよう選出されたことを歓迎する。

12. 次回 IMFC 会合は、2024 年 10 月に開催される予定である。